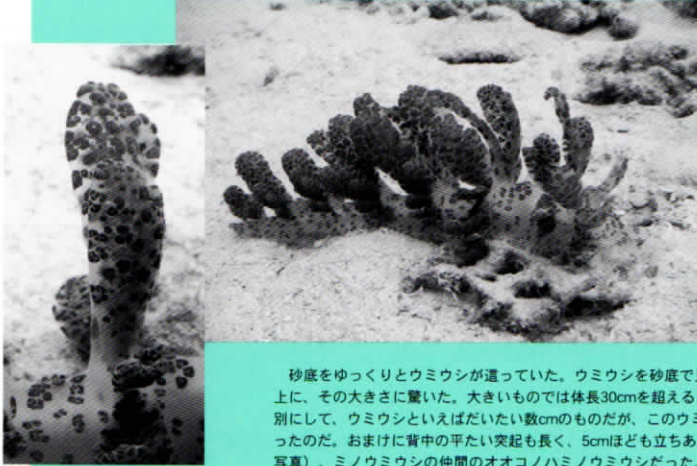


オオコノハミノウミウシ *Phylloidesmium longicirrum* (Bergh, 1905)



撮影：岩尾研二
撮影日：2010年11月4日
場所：慶留間港

砂底をゆっくりとウミウシが這っていた。ウミウシを砂底で見るのが珍しい上に、その大きさに驚いた。大きいものでは体長30cmを超えるミカドウミウシは別にして、ウミウシといえはだいたい数cmのものだが、このウミウシは14cmもあったのだ。おまけに背中の中たい突起も長く、5cmほど立ちあがっている（左の写真）。ミノウミウシの仲間のオオコノハミノウミウシだった。突起や背側の体表には褐色の豹紋が散在しているが、どうやらこれは体内の褐虫藻の色らしい。サンゴなどと同じように、このウミウシは体内の褐虫藻が光合成で作った栄養をもらっている。別の日にはソフトコーラルを食べているシーンに出会った。褐虫藻はこの動物から得ているらしい。ミノウミウシの類には刺胞動物を捕食して刺胞を無傷で体内に取り込み、体表につけて自分の防御に用いる種がいるが、このウミウシはそれはしない。

編集後記

編集 岩尾研二（研究員）

今号は、阿嘉島の地域的な話題から地球環境の問題まで、実に幅広い内容の原稿が集まりました。これだけ多様な記事が掲載される機関誌もないのではないかと思います。このユニークな傾向は、じつは創刊初期の頃から始まっており、例えば2号には下池和幸研究員（当時）の「阿嘉島海中ガイド」があるいっぽうで大森 信理事（当時）の「地球温暖化と海面上昇」の記事が掲載されています。分野や地域スケールに関係なく興味深い話題は掲載するという方針は、これからも変わりなく続けていきたいと思っています。変わるといえば、私たちの財団はこの春に仕組みを変更して一般財団法人となることになりました。そこで、長年にわたり評議員を務めていただいている西平守孝先生と村野正昭先生に「財団法人」として発行する最後の今号にご寄稿いただきました。お二人の研究の厚みを感じさせられる記事を掲載することができました。次年度から新たな体制になりますが、取組みの方針は変わりませんので、これからもよろしく願いいたします。



発行人
ESTABLISHMENT OF TROPICAL MARINE ECOLOGICAL RESEARCH

財団法人熱帯海洋生態研究振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ614号 TEL. 03-3490-7266 FAX. 03-3490-8278

AKAJIMA MARINE SCIENCE LABORATORY

阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179 TEL. 098-987-2304 FAX. 098-987-2875
E-mail: amsl@oki-zamami.jp Homepage URL: <http://www.amsl.or.jp>